

I. CAP(子どもへの暴力防止)プログラム提供事業



1. 主な活動実績

多くの子ども達に今後 CAP プログラムを伝え続けていく体制を作ることを目的として、以下の事業を行った。

- ①寄付によって CAP プログラムを提供する仕組みづくりとして、「1 万人の子どもに CAP を届けるキャンペーン」を始めた。
 - ・9 月 7 日に行った 10 周年記念事業をキックオフとして、CAP キャンペーンへの寄付を募り始め、11 月 1 日～12 月 30 日の期間にクラウドファンディング READYFOR?にプロジェクトとして支援をお願いしたところ、3 月末までに 1,030,600 円の寄付を集めることができた。
 - ・CAP キャンペーンを活用して、県内の小学校 6 校 17 クラスの小学生 521 人に CAP を提供することができた。
- ②団体設立 10 周年記念事業として、落合恵子氏を招き講演会「落合恵子さんが語る「子どもの人権」～今こそ、子どもたちへ CAP を！！～」を開催し、記念誌「子どものチカラ」を発行した。
 - ・講演会第 2 部では、「今こそ、子どもたちに CAP プログラムを」と題し、川崎市教育委員会人権共生担当課長 川崎靖弘さん、横浜市立桂台保育園園長岡正子さん、横浜市立西寺尾小学校校長瀧澤優子さん、山手学院中学校・高等学校校長大澤一郎さんをパネリストとして、CAP の実践報告を行った。
- ③神奈川県内の 6 つの CAP グループが連携し、「かながわCAP月間」を企画し、当団体では、11 月 16 日かながわ県民センター401 号室にて、おとなワークショップを開催した。
- ④川崎市、相模原市から委託を受け事業を実施した。

2. 年間ワークショップ数

207回を実施。(計画は、330回)

プログラム	対象	実績	計画
小学生プログラム	おとな向け(保護者)	26	28
	おとな向け(教職員)	1	2
	子ども向け	145	160
中学生プログラム	子ども向け	6	5
就学前プログラム	おとな向け(保護者)	1	2
	子ども向け	2	3
CAP キャンペーン	子ども向け(小学生)	17	100
	おとな向け(保護者・教職員)	6	30
施設	こども・おとな	3	0
合計		207	330

※教職員向けは対象が教職員のための開催数とします。

3. 行政委託事業

川崎市教育委員会・相模原市教育委員会

川崎市教育委員会事業 小学校 14 校 48 クラス

相模原市教育委員会事業 小学校 14 校 43 クラス

4. 「1万人の子どもに CAP を届けるキャンペーン」

概要:エンパワメントかながわ設立 10 周年を機に、2014 年 9 月にスタートした。これまで 1 クラス 2 万円の料金で実施してきた CAP プログラムを、支援者からの寄付 1 万円で交通費等の経費を賄い、1 クラス(40 人まで)の子どもたちとその学校の保護者や教職員に提供する。受講した子どもが 1 万人に達した時点で終了する。

対象:神奈川県内の小学校

クラスごとに子ども向け CAP プログラムを提供する。(1 学年のクラス数まで応募可能)

実施条件:子ども向け CAP プログラムの他に、おとな向け(保護者または教職員向け・無料)を実施する。

実施校名・受講者数などをエンパワメントかながわの HP 等で公表する。

受講した子どもの感想を寄付者に贈ることに協力いただく。

実績:2015 年 3 月までに、以下の 6 校 17 クラスで実施。521 人の小学生が受講した。

2014 年 11 月 4 日横浜市立戸部小学校(2 年生 2 クラス)、11 月 4 日保護者向け

2014 年 11 月 20 日伊勢原市立石田小学校(1 年生 3 クラス)、11 月 20 日保護者向け

2014 年 12 月 2 日・11 日川崎市立富士見台小学校(4 年生 5 クラス)、12 月 25 日教職員向け

2015 年 1 月 27 日厚木市立北小学校(3 年生 2 クラス)、1 月 27 日教職員向け

2015 年 2 月 9 日 葉山町立一色小学校(3 年生 3 クラス)、1 月 28 日(教職員及び保護者向け)

2015 年 2 月 18 日 横浜市立すみれが丘小学校(5 年生 2 クラス) 2 月 17 日保護者向け

決算:

2015 年 3 月末までに CAP キャンペーンに集まった寄付額は、1,030,588 円

うち、170,000 円を使用したため、残額 860,588 円を翌期に使用することとする。

Ⅱ. デートDV予防・啓発事業



1. 主な活動実績

- ①日本財団預保納付金にかかる助成金によって、デートDV予防プログラムの実施者養成事業を行なった。
- ②日工組社会安全財団によって、デートDV110 番をフリーダイヤル化して運営するとともに、デートDV110 番専用サイトを作成した。
- ③男女共同参画センター横浜からの委託を受け、横浜市内中学校・高等学校に対し、25 回提供した。
- ④ワークショップの提供においては、他に川崎市男女共同参画センター、川崎市人権・男女共同参画室、かながわ女性センター(現、かながわ男女共同参画センター)、各市町村男女共同参画部署からの依頼、茨城県、岩

手県、山梨県からの依頼もあった。また、中学校・高等学校において、学校予算にての実施が定着してきた。

- ⑤ かながわ女性センター 社会参画活動推進事業によって、デートDVの相談対応を学ぶための一般向け、教職員向けの研修を実施した。
- ⑥ 自主事業として、「若者のリアルと依存」シンポジウムを開催し、松本俊彦氏、仁藤夢乃氏、藤原志帆子氏をシンポジストとして招き、若者の現状を広く知る機会を持った。
- ⑦ モバイルコミュニケーションファンド助成金によって、「デートDV防止スプリング・フォーラム 2015」を開催し、全国で活動するユースが集い、その様子を撮影した。(2015 年度も継続事業として実施中)
- ⑧ かながわ女性センターからの依頼で、「教室でできるデートDV防止講座」を実施した。
- ⑨ 神奈川県人権男女共同参画課よりの委託によって、中学生向けデート DV 予防啓発冊子の作成をした。

2. 年間ワークショップ数

117回を実施。(計画は65回)

	対象	実績	計画
男女共同参画センター横浜	中学生向け	8	25
	高校生向け	17	
かながわ女性センター	大学生向け	3	3
川崎市男女共同参画センター 川崎市男女共同参画室	高校生向け	1	5
	大学生向け	2	
その他	高校、大学、その他	68	32
合計		117	65

3. 行政委託事業

①神奈川県立かながわ女性センター「デートDV防止講座」事業

神奈川県立かながわ女性センターより委託を受け、県内の大学3校において、約450人の大学生に、デートDV予防ワークショップを実施した。

②横浜市男女共同参画センター「デートDV啓発」事業

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会(男女共同参画センター横浜)より委託を受け、横浜市内の中学(8校)、高校(11校)、において生徒向けワークショップを実施し、合計約5,000人が受講した。

③川崎市男女共同参画センター委託事業

川崎市男女共同参画センターより委託を受け、高校生向けデートDV予防プログラム実施のための教材作成と、市内大学1校、高等学校1校において、ワークショップを実施し、約400人が受講した。

④川崎市人権・男女共同参画室委託事業

川崎市人権・男女共同参画室より委託を受け、大学１校にてワークショップを実施し、約１００名が受講した。

⑤神奈川県人権男女共同参画課委託事業

神奈川県人権男女共同参画課より委託を受け、中学校２年生向けデートDV 予防啓発冊子「ぴいまいせるふ」および教職員向け指導用引きを作成した。

4. 助成金事業



①日本財団預保納付金にかかる助成金事業

デートDV 予防プログラム実施者の養成事業

教材作成と養成講座の実施

エンパワメントかながわ中学生向けデートDV 予防プログラムの実施者を養成するために、DVD 教材・テキストの作成を行うとともに、デートDV の基礎研修・養成講座を実施した。横浜・東京・川崎にて開催し、全講座修了者 33 名。そのうち、5 県 6 校において実際に中学生または高校生にプログラムを実施し、約 800 名が受講するに至った。なお、川崎会場での実施は、川崎市男女共同参画センター協働事業として、広報支援、会場使用の協力を得た。

決算：

収入	助成金	2,650,0000	支出	諸謝金	1,403,680
	自己資金	59,703		交通費	156,854
				委託費	489,800
				諸費	659,369
収入合計		2,709,703	円	支出合計	2,709,703
					円

②公益財団法人日工組社会安全財団助成金事業

デートDV 電話相談事業

デートDV110 番をフリーダイヤルとして継続し、周知のためとデートDV 啓発の目的で、専用サイトを作成した。



決算：

収入	助成金	1,591,150	支出	諸謝金	881,200
	自己資金	201,308		交通費	51,036
				委託費	582,000
				所費	278,222
<hr/>			<hr/>		
	収入合計	1,792,458	円	支出合計	1,792,458
					円

④かながわ女性センター社会参画活動推進事業

気づいて、防ごう！デートDV相談のための講座開催事業

一般県民や教職員を対象とした、デートDVの研修事業

決算：

収入	助成金	100,000	支出	諸謝金	52,000
	自己資金	90		交通費	26,302
				所費	21,788
収入合計		100,090	円	支出合計	100,090
					円

Ⅲ. 各種人権啓発事業



1. 主な活動実績

①すきっぷ(子どもの護身法)プログラム

- ・逗子市教育委員会からの委託を受け、市内5校の小学校2,3年生に全27クラスに実施した。
- ・継続校2校での1年生と保護者にむけてプログラムを実施した。
- ・かながわ地域支援補助金にて、神奈川区内公共施設にてすきっぷ公開講座2回実施するとともに、神奈川区内小学校1年生の家庭向けにすきっぷポスター(A4版)を配付し、各小学校には、学校掲示版(A2版)を配付した。
- ・港南区社会福祉協議会「こうなんふれあい助成金」にて、公開講座1回を開催した。
- ・緑区地域振興課からの依頼で「子ども向け防犯ワークショップ」として公開講座を2回実施した。

②特別支援学級に通う子どもへの暴力防止(ほっと)プログラム

- ・障害のある子ども向け入所施設で、小学生向けと中学生・成人向けにはデートDVをテーマとして実施。
- ・中学教職員に対しての「障がいのある子どもの人権」をテーマとした研修、障がいのある子どもを支援する地域の人向け研修、施設職員向け研修等を実施した。

③子育てがラクになるワークショップ

- ・横浜市の子育て支援拠点2か所にて実施した。
- ・母子生活支援施設の保護者向け、子育て拠点での職員研修として実施した。
- ・神奈川区内の子育て拠点にて5回の連続講座を実施した。

④各種人権啓発プログラム

- ・神奈川県教育委員会から委託を受け、高校教職員向けの人権研修を校にて15回実施し、そのうち10回はテーマがデートDVだった。
- ・県立高校から依頼を受け、高校生向けセクハラ防止ワークショップを実施した。

- ・久喜市から引き続き人権研修の依頼を受け実施した。
- ・活動報告会として、各回テーマを変え 7 回の EK セミナーを実施した。

2. 年間ワークショップ数

80回を実施。(計画は、58回)

		実績	計画
すきっぷプログラム	子ども向け 保護者向け	44	13
ほっとプログラム	子ども向け、職員向け等	3	9
神奈川県教育委員会	教職員向け(生徒向け含む)	16	26
子育てがラクになるワークショップ	保護者向け、職員向け	9	2
その他各種人権プログラム	EK セミナー	7	7
	高校生向け	1	1
合計		80	58

3. 行政委託事業

①神奈川県教育委員会校内人権研修事業

神奈川県教育委員会から委託を受け、高校教職員向けの人権研修として、参加体験型7校8回、講話型8校8回を実施した。今年度講和型のうち2校では、生徒全員と教職員を対象としたデートDV予防がテーマとされた。また、重点項目として、デートDVがあげられていたこともあり、10コマはデートDVをテーマとしての実施となった。

②逗子市教育委員会委託事業

逗子市教育委員会より委託を受け、「児童生徒安全確保事業(体験型安全教室)」として、逗子市立小学校5校において、小学校2年生と3年生、全27クラスにすきっぷプログラムを提供した。

4. 助成金事業

①こうなんふれあい助成金

港南区社会福祉協議会より助成金を受け、すきっぷ(子どもの護身法)プログラムの普及を目的に、公開講座を開催した。港南区内の小学校や幼稚園、保育園に広報し、就学前の子どもや保護者22人が参加した。

決算:

収入	事業収入	2,500	支出	諸謝金	24,000
	自己資金	9,699		交通費	5,758
	助成金	45,000		所費	27,440
	収入合計	57,199	円	支出合計	57,199
					円

③かながわ地域支援補助金

神奈川県区政推進課より補助金を受け、すきっぷ（子どもの護身法）プログラムの普及を目的に、公開講座を2回実施し、また、神奈川県内全小学校1年生と市立保育園4園にすきっぷポスターを作成し、配付した。

決算：

収入	事業収入	14,500	支出	諸謝金	10,800
	自己資金	23,314		交通費	9,030
	補助金	44,000		所費	61,984
	収入合計	81,814	円	支出合計	81,814
					円

IV. 広報事業

1. 主な活動実績

- ①活動の最新情報を団体ホームページ上および SNS(twitter、facebook ページ)を連動しながら広く発信した
- ・トップページニュースの更新(30 回)をすべて SNS との連動で行った。
- ・CAP キャンペーンのための facebook ページを立ち上げ、活動の様子を発信した。

②啓発サイトを運営し情報を発信した

- ・デート DV110 番相談サイトを新たに開設(2014 年 10 月 24 日)した。(アクセス数:1600 件)
- ・デート DV 啓発サイト「それってデート DV なんじゃない？」のパソコンサイトおよび携帯サイトを運営した。

<アクセス数>

- ・団体ホームページ:29,000 件(25 年度 34,800 件、24 年度 5,200 件)
- ・デートDV予防啓発サイトPC版: 57,000 件(25 年度 61,000 件、24 年度 38,000 件)
- 携帯サイト:1,800 件(25 年度 5,200 件、24 年度 10,500 件)

③イベント告知を広く呼びかけるためプレスリリースを作成し報道関係各社へ配信した。

④会員と新たな会員獲得に向けて、エンパワメントかながわ活動報告会(EK セミナー)のためのチラシを作成した。

⑤エイズ文化フォーラムで2日間のパネル展示より団体の活動紹介を行った。

⑥社会貢献団体への寄付や人材募集のサイトに登録し支援を受けることができた。

- ・gooddo…クリック数に応じた支援 年間 52,615 円の支援をいただくことができた。
- ・Wantedly…団体スタッフの求人

⑦デート DV 予防啓発のためのグッズ制作

- ・相模原市より デート DV 予防啓発カード 13,500 枚
- ・神奈川県より 中学生向けデート DV 啓発冊子 原稿作成 (A6 サイズ 12 ページ)
- ・中学生向けデート DV 予防プログラムのキャラクターをモチーフにした LINE スタンプを作成(認証待ち)



V. エンパワメントかながわ リボン・プロジェクト



1. 趣旨

暴力のない社会を目指していくために、エンパワメントかながわが特に必要であると考え、ワークショップを提供していくプロジェクト。人と人とのつながりを広げていくことをイメージして、「リボン・プロジェクト」と名付けた。

リボン・プロジェクトの趣旨に賛同してくださった方からの寄付金、会員の意思で捻出した資金等を活用する。

2. 実施報告

①母子生活支援施設での暴力防止プログラムの提供

母親と一緒に入所している小中学生を対象にそれぞれの発達段階に合わせた暴力防止プログラムを提供した。一人ひとりが大切な人、自分の安心について一緒に考えることができた。

日時:2014 年7月 29 日・30 日・8 月 5 日

場所:神奈川県内母子生活支援施設

参加者:小学生 7 人、中学生1人、保護者2人、職員 2 人

支出:48,714 円

②高校生へのデートDV予防プログラムの提供

クラス単位でのワークショップの中で、自分の人権に気づき、人と人とは対等で尊重し合える関係性であるためにできることを考えることができた。

日時:2014 年 10 月 9 日、10 日

場所:神奈川県内高等学校

参加者:高校 1 年生 120 人

支出:35,456 円



③高校生へのデートDV予防プログラムの提供

各クラスに対し 2 日間かけ、丁寧にワークショップを行うことによって、暴力を受けずに生きていく権利がある大切な人であることを伝えることができた。

日時:2014 年 11 月 7 日 14 日、12 月 3 日 10 日

場所:神奈川県内高等学校

参加者:高校1年生 233 人

支出:98,030 円



④定時制高校生へのデート DV 予防プログラムの提供

定時制高校に通う高校生 1 年生から 4 年生に対し、

「あなたはとっても大切な人」であることを伝え、寸劇を通して、高校生自身が人と人とはお互いに大切にしよう(尊重しよう)関係であるためにできることを考えた。

日時:2014 年 10 月 8 日 11 月 5 日

場所:神奈川県内高等学校

参加者: 1・2 年生 85 人、3・4 年生 100 人

支出:34,337 円



VI. 10周年記念事業

1. 趣旨

2004 年 3 月 29 日に設立したエンパワメントかながわ(同 9 月 10 日に特定非営利活動法人取得)が 10 周年を迎えた。また、2014 年 2 月 10 日をもって、認定特定非営利活動法人とも取得した報告も兼ね、今までの活動を支えて下さった様々な方に感謝の気持ちを込めて、10 周年記念事業を開催した。

2. 概要

2014 年 9 月 7 日(日) かながわ県民センター2 階ホールにおいて、落合恵子氏講演会を行ったところ、約 150 名が参加した。

第 2 部では、CAP を実施した学校長の先生などから実践してみてもの感想やご意見、また、CAP スペシャリストからこれまで出会った子ども達の声などを報告した。



講演会終了後、10 周年記念パーティーを開催し、これまでお世話になった方々を招き、88 名が参加した。また、10 周年記念誌として「子どものチカラ」を発行し、配布した。

3. ともしび基金

子どもたちをいじめや虐待、性暴力から守るため、県内のおとなに向けて CAP(子どもへの暴力防止)プログラムについてより具体的に知ってもらう方策として、講演会の実施、記念誌の発行・配付、DVD の作成・配付を行った。



決算:

収入	助成金	600,000	支出	諸謝金	478,000
	自己資金	157,988		所費	279,988
	収入合計	757,988	円	支出合計	757,988 円

VII. 事務局体制

1. 事務局体制の強化

①Panasonic 組織基盤強化事業 2 年目を終了し、3 年目助成が決定した。

組織基盤強化事業 2 年目は、「社会を変える人づくり計画」として、コンサルタントによるヒアリング、研修などを通じて、組織の目指すところの共有を進めた。事務局体制の効率化を目指すために、セールスフォースの導入活用を実施中である。

2013 年 7 月 1 日～2014 年 6 月 30 日までの組織基盤強化事業

決算：

収入	助成金	910,000	支出	諸謝金	521,000
	自己資金	8,070		交通費	97,070
				委託費	300,000
収入合計		918,070	円	支出合計	918,070 円

②事務局及び組織運営体制の見直し

事務局長を雇用した。

ワークショップスタッフ、電話相談員、事務員等と業務委託契約を締結することとした。